



▲ 昨年12月、当山報恩講にての渡邊先生お取次ぎの様子



金光寺寺報
第199号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
TEL 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

帰命と申すは 如来の勅命に したがうところなり

一月の法語は、『尊号真像銘文』からの一文で、天親菩薩の『浄土論』冒頭の帰敬偈「世尊我一心 帰命尽十方 無礙光如来」の「帰命」を解釈された一文です。

帰命と申すは如来の勅命に

したがふところなり

(注釈版聖典651ページ)

(「帰命」とは「南無」であり、また「帰命」というのは阿弥陀仏の本願の仰せにしたがうという意味である。)

この文は、「帰命と申すは如来の勅命にしたがうところなり」と、如来より「帰命せよ」との招喚に信順し真実信心を頂戴した、衆生の立場からご解釈されています。

一方で、『教行信証』「行文類」では六字の名号をご自釈されて、「南無」とは、私の信順に先んじた如来の招喚する「帰せよ」の勅命で、

如来がすでに因位の時に誓願を起こされ発願されて、衆生の行を回施された(「発願回向」)如来の大悲心とされます。また、それは如来が第十八願に誓われた行(「即是其行」)であると、六字の全体を阿弥陀さまの救いのお立場から解釈されています。

このように親鸞聖人は、釈迦・弥陀の勧めと喚び声に対して信順され、「帰命」と名号を称えて、浄土往生を願われたのでした。私たちは、天親菩薩が力をつくして示された仏さまの救いの御名を聞いて、阿弥陀さまの真実功德が、まさにこの凡夫の世界に満ち満ち、いかなる時においてもその大悲の中に願われ生かされていることを知らねばなりません。その阿弥陀さまに信順するところに間違いなく浄土に生まれさせていただける安心ができるのであります。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

2018年

- ◎ 1月 18日(木)～19日(金)
- ◎ 2月 7日(水) 午後
- ◎ 3月 5日(月) 終日
21日(水) 午前中

昨年12月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2017年12月 1日寂 満68歳 寺村 秋岡 正章 様
- 2017年12月 3日寂 満91歳 小川 藤本 定幸 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
1月9日現在 アクセス数 80,704人

皆様さん、どのようなお正月を過ごされましたか？私は元日からテレビにてスポーツ観戦三昧でした。実業団駅伝、箱根駅伝、アメフト、実業団ラグビー、高校ラグビー、春高バレーと昨日(八日)まで退屈することはありませんでした。しかし、じつと座って目の前には食べ物を手を出し、エネルギー消費をすることが五キロの減量に成功した体がメタボ体型に戻ってしまったのです。▼パソコンを使用しているのはと体重計に乗るのが心配です。▼パソコンを使用しているパソコンが古くなってきているのか、今月号を作成しているときに、今月号の辞書の四段目最後の何行かで文字の不具合が生じました。液晶画面の不具合が生じた。実際文字に不具合が生じているのか判断できません。印刷しているのかわからないので、印刷してみないとわかりません。印刷作業は書き終えるまで、印刷して文字の不具合と分かっても修正できません。その際はご許してください。

(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

夜叉

「熱海の海岸散歩する、寛一お宮の二人づれ」尾崎紅葉の『金色夜叉』の名場面です。金のために許婚(いいなづけ)

のお宮を奪われた寛一が、高利貸しとなって、金の力で、宮や世間に対し復讐の鬼となる物語ですね。「外面似菩薩、内心如夜叉」という言葉を聞いたたり、「夜叉の面」を見たりすると、夜叉は恐ろしい鬼のイメージです。夜叉は古代インド語「ヤクシャ」の音写で、勇健、鬼神と訳されます。ヤクシャは古代インドの神話に登場する半神半鬼で、神通變化の力を持っており、人間を助け恵みを施す善神の反面、害をなし人を食う凶悪な鬼類でもあり

ります。その伴侶が、魅力的な若い女性で、セクシーな姿に表現されているヤクシーです。この夜叉は、お釈迦さまの説法により、仏法を護持する八部衆の一神となり、毘沙門天の配下として北方を守護しています。おそらく、信心ある人を守っていることでしょう。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART II から)

住職ひとりごと

年頭の辞

命の縁あって、二〇一八（平成三十）年を迎えることができました。

皆さまとともに新春を迎えられたこと喜びたいと存じます。

本年も金光寺の護持と寺報についてのお育てをと念じることです。



門主 大谷光淳

また、お念仏のお慈悲たまるる身であることを、念仏申しながら感謝申し上げる一年でありますようにとも思うことです。

どうぞよろしくお願いいたします。

浄土真宗本願寺派ご門主大谷光淳さまが本願寺出版社発行「大乘」誌に年頭のご挨拶を申しあげられておりますので、本年も全文をそのままご紹介いたします。

どうぞお読みください。

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、「平成二十九年七月九州北部豪雨災害」において、多くのご門徒の方々が被災されました。犠牲となられた方に衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、昨年三月には東日本大震災の発生から七回忌を、四月には平成二十八年熊本地震から一周忌を迎えました。災害によって多くの方が犠牲となられ、被災されています。



「諸行無常」の世であることを痛感するとともに、今、様々なご縁の中で生かされているのちであることを実感します。今後宗門として、被災各地への支援活動を続けてまいります。

昨年、五月三十一日までの十期八十日間にあたる「伝灯奉告法要」には、約四十五万人の方に本願寺へご参拝いただきました。大変ありがたく、感謝申し上げます。法要初日の親教「念仏者の生き方」と「伝灯奉告法要御満座の消息」において、浄土真宗のみ教え

を聞き、阿弥陀さまのおはたらきの中で生きる私たちの生き方について述べさせていただきました。

グローバル化する時代状況の中、二〇一五年、国連では「持続可能な開発目標（SDGs・エスディージーズ）」が採択されましたが、これは、今のままでは将来の世代に人類が生存できる地球を受け継ぐことができないという強い危機感に基づくものです。そこでは「誰一人取り残さない」を理念として、「貧困」や「不平等」「環境」「平和」など十七の課題解決のための目標が掲げられています。

阿弥陀さまのおはたらきの中、その大智大悲のお心に促され導かれて社会的課題に積極的に取り組み、すべての人びとが心豊かに生きられる社会の実現を目指すのが私たち念仏者です。本年も、浄土真宗のみ教えを聞き、阿弥陀さまのおはたらきのもと、念仏者として精一杯歩んでまいります。

法語の世界

《原文》

蓮如上人、幼少なるものには、まづ物をよめと仰せられ候ふ。またその後は、いかによむとも復せず詮あるべからざるよし仰せられ候ふ。ちと物に心もつき候らへば、いかに物をよみ声をよくよみしりたるとも、義理をわきまへてこそと仰せられ候ふ。その後は、いかに文釈を覚えたりとも、信がなくてはいたづらごとよと仰せられ候ふ。

（蓮如上人御一代記聞書 二百十五）

《現代語訳》

蓮如上人は、年少の者に対しては「ともかくまずお聖教を讀みなさい」と仰せになりました。また、その後は、「どれほどたくさんのお聖教を讀んだとしても、繰り返して讀まなければ、その甲斐がない」と仰せになりました。そして、成長して少し物事がわかるようになると、「どれほどお聖教を讀み、漢字の音などをよく學んだとしても、書かれている意味がわからなければ、本当に讀んだことにはならない」と仰せになりました。さらに、その後は、「お聖教の文やその解釈をどれほど覚えたとしても、信心がなければ何の意味もない」と仰せになりました。

新年あけましておめでとうございます

旧年中は金光寺の護持に格別のご協力をたまわりありがとうございました。また法座へのご参詣についても多くの皆様にお出でいただきありがとうございました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二〇一八（平成三十）年 一月
金光寺役員・総代・仏婦役員一同
金光寺 寺内 一同

仏事予約についてお願い

ご自宅での年回忌法要ではなく、当山にての年回忌法要（仏参）の際に、前日に「明日、〇〇忌をお寺でお願いしたいのですが」と依頼をいただくことができます。できれば、前日ではなく早目の連絡をお願いいたします。

